

緑生瓦版

2007.11.01

第十一号

営業のつばやき

営業の仕事といえは企画書・見積書の作成は当然のことですが、環境調査会社の場合、生き物のことも知ってなければいけません。どうしても広く浅くになりませんが、いちおうひととおりのことはお客様に説明できるように日頃から心がけるようにしています。

ところで、環境調査の仕事には季節的な繁忙期があります。生き物が相手なので当たり前といえはそうなのですが、生物の活動する時期に業務が集中しています。調査シーズンに入ると、毎日のように社員は調査に出ていきます。そしてシーズンも中ごろになると、だいたい雲行きが怪しくなってきました。そう、営業にも声がかかるのです。現役で調査に出ているのは○年前のこと。さび付いた体に鞭打って、年に何回か現場の手伝いに行くことになりました。これも営業の足しになっています。これと思いますが、体がついていきません。

東京本社（企画・営業）
麻生薫

緑生研究所って、どんな会社…?

～ 環境影響評価の巻 ～ 生態系の考え方

生態系の考え方として生物学の教科書では「エネルギーの流れ」、「有機物の流れ」、「生物のつながり」の3つが紹介されています。環境影響評価では、比較的イメージしやすく、動植物の調査結果を利用して効率的に予測評価が行える「生物のつながり」の視点でとらえることがほとんどです。しかし、まとめ方にはきまった形式がまだになく、扱いが難しい項目のひとつとなっています。ここでは、そんな生態系を当社がどのように考え、対応しているのか、その概要をお話します。（調査部 坪山聡）



予測評価の最終的な形を見据えて設定します。（担当者の腕の見せ所です）

- ・事業特性（開発形態、事業計画など）
- ・環境特性（地形、植生など）
- ・社会特性（土地利用、地域性など）

環境類型区分の設定

各環境類型区分における主な動植物の選定

動植物の調査結果を利用して、効率化を図ります。



図表で整理し、わかりやすくイメージしやすいものになるよう心がけています。

各環境類型区分における食物連鎖の把握

- ・各環境類型区分における食物連鎖の主な構成種一覧
- ・各環境類型区分の食物連鎖模式図
- ・各環境類型区分の生態系の概況（模式断面図）

予測評価の対象となる環境類型区分の抽出

影響のある環境類型区分のみを対象とすることで、効率化を図ります。

選定の「根拠」と「方法」を明確にし、内容をわかりやすく説明します。

注目種の選定

- ・上位性の注目種
- ・典型性の注目種
- ・特殊性の注目種

担当者の知識と経験が問われる部分です。

注目種に対する事業の影響予測

「根拠」と「方法」を明確にし、内容をわかりやすく説明します。

環境保全措置の策定

面積、生息個体数、餌量などの変化

事例の収集や専門家へのヒアリング等により、可能な限り客観性（裏付け）を持たせるようにします。

事後調査計画の策定

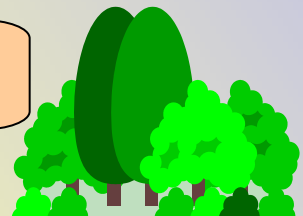
環境保全措置の効果の確認

可能な限り定量的な方法を用いるように、心がけています。

評価



不確実性の高い事項（予測評価の結果）について、対応します。



写真だより



アケボノソウ *Swertia bimaculata*

山地の湿った場所などでみられる秋の花で、大きさは2cmくらいです。花びらにある模様が、夜明けの空の月と星にみえることから「曙草」という名が付いたといわれています。

セキヤノアキチョウジ *Rubrosia effusa*

山地の木陰などで、青紫色の小さくて綺麗な花を目にすることが出来ます。秋に丁字に似た花を咲かせることから「秋丁字」、そして本種が箱根に多いことから、箱根にゆかりのある「関屋」(関所の番小屋のこと)を冠したといわれています。



アンケートのお願い!

Q.「緑生瓦版」のなかで取り上げてほしい内容や、ご意見、ご感想などを教えてください。

差し支えなければ、会社名、所属、氏名をお教え下さい。

会社名：

所属：

氏名：

ご協力ありがとうございました。

恐れ入りますが、アンケートの回答は、**緑生研究所(坪山)宛に FAX(042-487-4334)** でお願いいいたします。

編集後記

お読みいただき、ありがとうございます。
第十二号は、年明け平成二十年一月一日の発行を予定しています。
新年号では特集はお休みたいと思いますが、新年に向けての当社の意気込みをお伝えいたします。

「富有はあごで食べ、次郎は歯で食べ、たねなしは舌で食べる」と言われるのは、秋の味覚「柿」です。富有、次郎などの甘柿や、平核無、刀根早生などの渋柿が有名ですが、実際には千種類以上の品種があり、ちょっと驚きです。
血液中のアルコール分を排出する働きがあるビタミンCとタンニンを多く含む柿は、これからの季節の必需品と言えるのではないのでしょうか。

コラム

